



PRICE-KUMI

鉄
工
ヤ
ス
リ

組
ヤ
ス
リ

技
能
五
輪
検
定
マ
シ
ン

コ
ー
テ
ィ
ン
マ
シ
ン

精
密
ヤ
ス
リ

ダ
イ
モ
ン
ド
マ
シ
ン

の
こ
ヤ
ス
リ

波
目
ヤ
ス
リ

鬼
目
ヤ
ス
リ

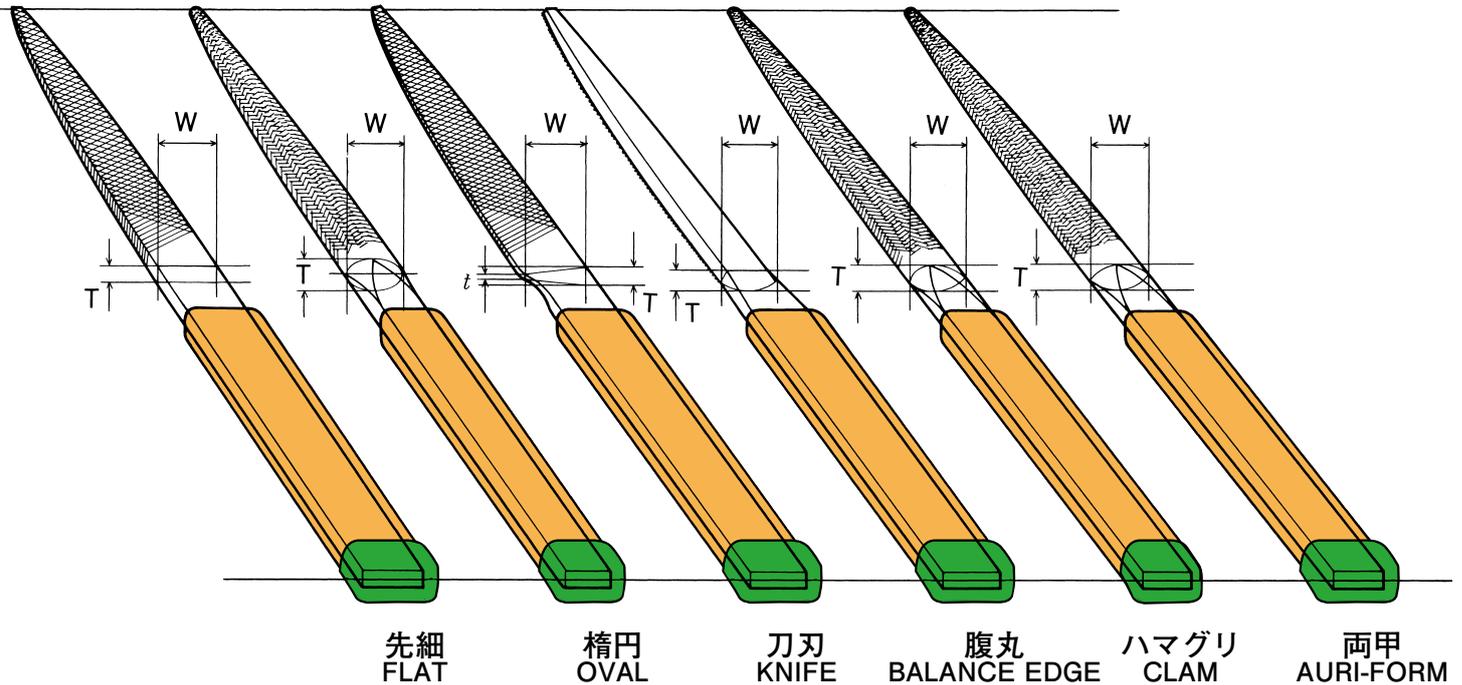
修
正
ヤ
ス
リ

電
動
ハ
イ
ト
磨
き
マ
シ
ン

そ
の
他

外
国
製
ヤ
ス
リ

付
録



| 先細 FLAT | 楕円 OVAL | 刀刃 KNIFE | 腹丸 BALANCE EDGE | ハマグリ CLAM | 両甲 AURI-FORM | 1箱入数 No. / BOX |
|--------------|--------------|----------------------|--------------------|--------------|-----------------|---|
| W × T mm | W × T mm | W × T × t mm | W × T mm | W × T mm | W × T mm | BOX COLOR |
| (11) × (3.5) | (11) × (6.5) | (13) × (3.5) × (2.0) | (12) × (3.5) | | | BOX 25 pcs |
| 1.50 | 1.80 | 1.48 | 1.48 | | | CARTON 600 pcs |
| (5) | (5) | (5) | (5) | | | SH 005 ** DE 005 ** KH 005 ** HM 005 ** |
| 9 × 3.0 | 9 × 4.5 | (11) × (3.0) × (1.5) | (9.5) × (3.0) | | | BOX 40 pcs |
| 1.40 | 1.62 | 1.60 | 1.62 | | | CARTON 800 pcs |
| 8 | 8 | (8) | (8) | | | SH 008 ** DE 008 ** KH 008 ** HM 008 ** |
| 7 × 2.5 | 7 × 3.4 | 8.2 × 2.5 × 1.0 | 7.3 × 2.5 | | | BOX 50 pcs |
| 1.32 | 1.24 | 1.20 | 1.30 | | | CARTON 1000 pcs |
| 10 | 10 | 10 | 10 | | | SH 010 ** DE 010 ** KH 010 ** HM 010 ** |
| 4 × 2.0 | 4 × 2.5 | 4.5 × 2.0 × 1.0 | 4.2 × 2.0 | 4.2 × 2.2 | 4.0 × 2.2 | BOX 60 pcs |
| 0.76 | 0.82 | 0.72 | 0.70 | 0.78 | 0.82 | CARTON 1200 pcs |
| 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | SH 012 ** DE 012 ** KH 012 ** HM 012 ** HG 012 ** RK 012 ** |



END-CAP

- 荒目 Bastard Cut 1
- 中目 2nd. Cut 2
- 細目 Smooth Cut 3
- 油目 D. Smooth Cut 4

やすり八題 ②

荻山 信行

馬の歯形

古墳から出土する鉄器は、全体が錆(さび)に覆われているので、表面形状は分からないことが多い。そのような理由で「確実にやすりと認められるものは、国内では出土していない」といわれているのではないだろうか。

国内で出土している唯一のやすりらしき物は、倉敷市の倉敷考古館に展示してある。

この物は総社市西阿曾の随庵古墳(五世紀後葉)から鉄鉋(かん)、鉄床、鉄鋸(ついで)、砥石(といし)などと一緒に出土している。「外観は全長34.5㌢、そのうち柄部6㌢は木柄の痕跡をとどめている。身部は幅3㌢、厚さ5㌢の短冊形品で、先端にも両側にも刃はついていない。完全品があって、用途は不明である。あるいは鋸ではないかと思っている。しかし、錆化していてそれを確かめ得ない」と報告書は結んでいる。

鍛造工具や砥石と一緒に出土していることなどから考えて、この物はやすりであるとしても不合理はないと思う。

例えば、刃物(鉄器)を作ることを想定してみよう。鍛造であらかたの形を作り、次にやすりで形を整え、最後に砥石で仕上げの研磨をする。この工

程からやすり作業を省くと、砥石での研磨に時間がかかり過ぎて非常に無理がある。砥石での仕上げ前に、やすりがけが必要なのである。

五千年の歴史を持ち、冶(や)金技術をリードした中国では、四本の銼(やすり)が出土している。

河北省の満城漢墓(BC113年)から出土した銼の報告書は、次のように説明している。「細長い形で一端が破損している。片面の半分は横平行にやすり歯が刻まれていて、1㌢の中に六個の歯がある。現在の『馬歯形やすり』に類似しており、木やすり類に属する。残っている長さは20.4㌢、幅1㌢、厚さ0.3~0.5㌢である」

日本の『和漢三才図会』に出ている雁鉋(がなぎやすり)に非常によく似ている。中国では馬の歯形と表現し、日本では石段のガングだと形容している。(広島県立西部工業技術センター主任研究員=呉市)

緑地帯 3. 9. 27 中国新聞より